

(二〇一三年度)

5 国語問題 (六〇分)

(この問題冊子は19ページ、三問である。)

受験についての注意

- 一、監督の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
- 二、試験開始前に、監督から指示があったら、解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し、所定の欄に氏名を記入すること。次に、解答用紙の右側のミシン目にそって、きれいに折り曲げてから、受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し、机上に置くこと。
- 三、監督から試験開始の指示があったら、この問題冊子が、右に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
- 四、筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能などを使用してはならない。
- 五、解答は解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。その他の部分には何も書いてはならない。
- 六、マークをするとき、マーク欄からはみ出したり、白い部分を残したり、文字や番号、○や×をつけたりしてはならない。
- 七、訂正する場合は、消しゴムでいいねいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
- 八、解答用紙を折り曲げたり、破ったりしてはならない。
- 九、試験時間中に退場してはならない。
- 十、解答用紙を持ち帰ってはならない。
- 十一、問題冊子は必ず持ち帰ること。

一

次のA、Bの文章を読んで、後の問に答えよ。

A 日常言語は、その因襲的な結びつき方によって、特定の現実を、それを使う者に押しつける。この時起る現象は、そういった日常言語が、より深いレヴェルの現実の顕在化を阻止するという現象である。詩的言語は、¹こういった日常生活の表層部分をモデルとした現実の押しつけの拒否である。ヤコブソンは詩的言語の破壊的性格を次のように説く。

同じように、マラルメが述べている。私は、ブルジョワが新聞で日々読んで熟知している言葉を、かれらに贈呈する。ただし、かれらが啞然とするように結び合わせて贈呈する、と。

²既知のものを土台にしてのみ、未知のものが了解され、衝撃を与える。

未知のものが了解され、つまり現出すること自体が衝撃を与えるということは、逆に、衝撃は、未知のもの³の出現に外ならない。未知のもの³の現出とは、慣例化した行為と言葉の時間的、日常生活的原因論の断ち切りである。

B 言葉及び行為の機械的接合に対して詩的言語が、異議申し立てを行うことについて、ヤコブソンは次のように述べる。

音韻と意味との機械的な接近連合は、習慣化すればするほど、ますます速^{すゐ}かに成立するようになる。ここから、日常³のパロールの保守性が産れる。かくて、語の形式は急速に死滅する。

詩に於ては、機械的な連合(association)の役割が極度に抑えられる。その反面、語の構成要素を分離すること(dissociation)が排他的に関心を惹く。分離されたものの断片は容易に組み合わせられて新しい結合体となる。

二〇年代ロシアの最も華々しい知的実験の合言葉であった「形式」への関心をこれほど生々と描いている言葉は少ない。形式は、その形式の中で組み合わせうる語の体系が日常生活の論理に吸収されて完全に理解可能になる時、それは透明なものとなり、日常言語の意味論では了解することの出来ない現実の他のレヴェルの反映能力を急速に失う。ヤコブソンが「日常のパロールの保守性」と呼ぶ状態がそれである。生々とした「形式」⁴について語らなくてはならないのは、日常生活の文脈の中で習慣化されてしまった語の統合形態としての「形式」が死滅し易いからである。人間は異質の体験を長い期間、異質なままで放置しておくことができない。それを己れのアイデンティティの中に吸収するか、己れのアイデンティティ——つまり平衡を保つために一人の人間、あるいは社会が容認しうる現実の範囲——を解体するか、どちらかしか選択の余地はない。人が、本源的な生との距たりを少しでも縮めようとすれば、選ぶ道は後者にしかない。そこで、現実の解体による——詩的現実、つまり可能形態における現実の導入による——他に、真のアイデンティティの保証は求められない。そこで、語あるいは行為の機械的な連合の役割が極度に押えられる必然性が成立して来る。

メイエルホリドが、⁶身体演技をその構成単位に分解し、これを、各部分の行為及びその「かたち」の必然性に基づいた演技の全体性に切り換え、紋切型に陥り易い大脳の中樞神経の支配から脱する方向に向かって再編成したのは、そのせいであった。「分離されたものの断片は容易に組み合わせられて新しい結合体となる」という表現が理解されるのはそういう文脈の上においてであろう。エイゼンシュタインのモンタージュの手法も、現実を再現する場面^{シチュエーション}の断片を、因果論的拘束から解放して、図像が本来持っている力学的可能性、その潜在力^{ポテンシャル}を生かそうとする、深層の現実の反映の技法であった。この二人が、⁷コンメーディア・デラルテ(イタリア喜劇)の道化の演技、及び特にサーカスの演技の可能性に眼を開いていたことは、我々の関心をそそってやまない。つまり、コンメーディア・デラルテの道化においては、徹底した肉体訓練によって、俳優は、頸、手、腕、足、胴、各々の部分の演技的可能性を充分に展開する。必要とあらば、右腕と左腕を夫々独立のものとして、両手に掴み合いの喧嘩を始めさせる。足をふつうの人間なら二歩動かすような場合に四歩、又は五歩動かすことによって日常生活における身体のリズムとは別のパターンを作り出す。逆に二歩のところを一步ということもある。その増幅又は省略による齟齬感^{そご}は、日

常生活の慣習化した身体のリズムの組織化と異なるために、「笑い」を引き起す。しかし、その「笑い」によって、効用性の体系から離脱する権利を認められる。こうして道化に認められる自由は、同時に、彼を人間の範疇はんちゆうから押し出す働きもする。その自由を逆手に使つて道化は、新しい総合トータルテイへの道を示す。その際、笑いは、常に二面性をもつて、人々の生活に介入して来る。笑いは、事物、行為を、それらが日常生活で属している文脈から切り離してしまふ。人は自らが、日常生活の文脈の内側に属していると思うから、その文脈から離脱、又は脱落した人、事物を笑うことが可能である。しかし、それらの人、事物が、離脱の自由を駆使して、それらが本来持つていた運動の可能性を発揮したら如何であろうか。次の瞬間に、日常生活の文脈から誘い出されるのは、笑つた側であることに気づかざるを得ない筈はずである。笑いは、事物を日常的な文脈から切り離して、宇宙的リズムに置き換える最も身近で有効な手段である。

笑いの効果のうちで最も目につきやすいものは、事物・言語と日常生活的文脈の間に剝離状態を起させ、それらの事物・言語を、「見なれぬもの」に転化させるといふ働きである。多分それはヤコブソンが「意味の異形化デフォルメーション」と呼んだものに近い筈である。ヤコブソンはこのような効果の具体的な例として、(a)リズムによる語の分断、(b)ある語を他の語の中間へ割込ませる方法、といった語及び音韻上の「異形化」の例をあげているが、同じことは、北軍を機関車で追跡して行くうちに、薪を投げ込む作業そのものの美学に熱中し、南軍地域を遙かに飛び出した「將軍」におけるキートンの廻り道そのものの正当化の論理につながるものでもあろう。

日常の因果論の体系の一切に疑問を投げかけ、これらを見慣れぬものにしてしまふというのはシェークスピアの芝居の中で道化達が、絶えず演じている役である。

こういった文脈からの切り離し作業、そしてそういった作業を通じて事物を本来それらが属していた本源的な体系の中に連れ戻し、それらが本来帯びていた輝きを取り戻させる作業は、同時にそれらの事物、行為、及び語を組織する、新しいリズムを組織するという行為くわいに連つて行く。こうして日常言語の破壊を通じて得られたエントロピーは、そのまま、もう一つの現実への飛躍の発芽となるのである。

〈注〉

ヤコブソン：ロマン・ヤコブソン（一八九六～一九八二）アメリカの言語学者。ロシア生まれ。 マラルメ：ステファヌ・マラルメ（一八四二～一九八）フランスの詩人。ブルジョワ：市民階級、資本家、有産者。 パロール：話し言葉。 メイエルホリド：フセヴォロド・メイエルホリド（一八七四～一九四〇）ソ連の俳優、演出家。 エイゼンシュタイン：セルゲイ・エイゼンシュタイン（一八九八～一九四八）ソ連の映画監督。 モンタージュ：個々の断片をつなぎ合わせて一つの場面を構成する技法。「將軍」：サイレント映画「キートンの大列車追跡」のこと。「キートン將軍」の題でも知られる。 キートン：バスター・キートン（一八五九～一九六六）アメリカの喜劇俳優。 エントロピー：物質の系の熱力学的状態を表わす量で、その系の混沌性の度合い。

問一 傍線部1（日常生活の表層部分をモデルとした現実の押しつけ）とは、どういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 日常生活における言葉のやり取りは、コミュニケーションの円滑化を目指しているということ。
- b 日常生活における言葉のやり取りは、非効率なことば遊びを許さないとということ。
- c 日常生活における言葉のやり取りは、社会常識からの逸脱を許さないとということ。
- d 日常生活における言葉のやり取りは、礼儀作法の順守を求めるとということ。

問二 傍線部2(既知のものを土台にしてのみ、未知のものが了解され、衝撃を与える)とは、どういうことか。次の中からもつとも適切なものを一つ選べ。

- a 人々が熟知している言葉が、未知の意味を担っていることが分かり、衝撃を与えるということ。
- b 人々が熟知している言葉が、まったく新しい組み合わせで提示されるので、衝撃を与えるということ。
- c 人々が熟知している言葉を用いることによって、未知の美が出現し、衝撃を与えるということ。
- d 人々が熟知している言葉によりそって、未知の世界が解説されるので、衝撃を与えるということ。

問三 傍線部3(日常のパロールの保守性)とは、どういうことか。次の中からもつとも適切なものを一つ選べ。

- a 日常の言語は、日常生活の論理によって、速やかに理解されるということ。
- b 日常の言語は、日常生活の必要から生み出されたものであるということ。
- c 日常の言語は、日常生活を成立させる拠り所であるということ。
- d 日常の言語は、日常生活の文脈の中で習慣化された語の統合形態であるということ。

問四 傍線部4(生々とした「形式」)とは、どのようなものか。次の中からもつとも適切なものを一つ選べ。

- a 語の様々な組み合わせを可能にする透明な形式。
- b 日常の言語によって覆い隠されたレヴェルの現実を反映する形式。
- c 日常生活における円滑な意志疎通を可能にする形式。
- d 日常生活のより深いレヴェルから生み出された形式。

問五 傍線部5(現実の解体による——詩的現実、つまり可能形態における現実の導入による——他に、真のアイデンティティの保証は求められない)とは、どういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 社会が容認しうる現実とは、詩的現実との対比を経て、その有効性が確認されるということ。
b 己れの現在のアイデンティティは解体するべきであり、詩的現実のもつ機能を採用することが必要であるということ。
と。

c 異質の体験によって揺らいだ己れの平衡は、可能形態における現実によって安定を保証されるということ。

d 詩的現実の導入は、社会が容認しうる現実の範囲を押し広げてくれるということ。

問六 傍線部6(身体演技をその構成単位に分解し、これを、各部分の行為及びその「かたち」の必然性に基づいた演技の全体性に切り換え、紋切型に陥り易い大脳の中枢神経の支配から脱する方向に向かって再編成した)とあるが、「再編成した」のはどのような理由によるのか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a きまりきった演技は、現実の容認につながるから。

b なめらかな演技は、舞台稽古によって、獲得されねばならないものだから。

c 身体各部分の「かたち」に基づいた演技は、観客の共感を呼ぶから。

d 身体各部分の「かたち」に基づいた演技は、演技の全体性を損なう俳優の表現意欲を昇華させることができるから。

問七 傍線部7にメイエルホリドとエイゼンシュタインが(コンメーディア・デラルテ(イタリア喜劇)の道化の演技、及び特にサーカスの演技の可能性に眼を開いていた)とあるが、それはどのような理由からか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 俳優の肉体を徹底的に訓練することが、演技の幅を飛躍的に広げる可能性を持つとみていたから。
- b 手足の動きを分解・増幅・省略する俳優の身体の使い方が、観客に齟齬感を与える可能性を持つとみていたから。
- c 俳優の手足の思いがけない動きが、観客の「笑い」を引き起す可能性を持つとみていたから。
- d 手足の動きを分解・増幅・省略する俳優の身体の使い方が、身体演技そのものの全体性を獲得する可能性を持つとみていたから。

問八 傍線部8(笑いは、常に二面性をもって、人々の生活に介入して来る)とは、どういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 笑いをもたらす道化は、社会的慣例の拘束から解放されると同時に、社会的庇護の圏外の存在とみなされるということ。
- b 笑いによって事物、行為は、日常生活の文脈から切り離されると同時に、それらの本来持っている可能性が発揮されるということ。
- c 笑いは、事物、行為の日常生活の文脈からの脱落に対して引き起されると同時に、人々に日常生活からの逸脱をもたらすということ。
- d 笑いは、事物、行為の日常生活の文脈からの脱落によって引き起されると同時に、日常生活の文脈の内側にいる人々に、安心感を与えるということ。

問九 傍線部9へ多分それはヤコブソンが「意味の異形化」と呼んだものに近い筈である。における「意味の異形化」とは、ど

デフォーメルメーション

ういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 事物・言語に本源的な体系を与える作業のこと。
- b 事物・言語から慣習的な了解の透明性を剝奪すること。
- c リズムによって言語を分断すること。
- d 言語の新しいリズムを組織し、言語の保守性を批判すること。

問十 本文の内容に合致するものはどれか。次の中から二つ選べ。

- a マラルメは、言葉を大胆に結び合わせた詩によって、人々の無自覚な現実受容にショックを与えようとした。
- b 語の統合形態としての「形式」は死滅しにくいので、詩的言語においては、語の機械的連合を利用しなければならぬ。
- c 演劇及び映画において、道化の演技が注目されたのは、道化の引き起す笑いが、反社会性を帯びているからである。
- d 詩的言語は、事物・言語を「見なれぬもの」に転化させ、それらが存在として持っている輝きを取り戻させる。
- e 詩的言語による日常言語の破壊は、人々のアイデンティティに衝撃を与え、生の不安を喚起する。

二

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

昔、伊勢と聞こえし歌読みの女、世の中すぎわびて、都にも住みうかれなんどして、世にふべきたづきもなく侍りけるが、
太秦にまゐりて、心をすましつつ、勤めなんどして、

南無薬師あはれみ給へ世の中ありわづらふもおなじやまひぞ

と詠みて侍りければ、³ 仏殿うごき侍りけり、その夜の暁、夢に貴き僧のおはして、汝が歌の、身にしみて思し召さるれば、世
にありつくべき程のこと侍るべし、この暁、いそぎてまかりいでね、もし、道にて思はざること侍るとも、いなぶ心あるべか
らずと見つ、あはれ、かたじけなきことに覚えて、まかり出でぬ、⁴ 何となく苦しきままに、ある古堂に人もなくて侍りけるに
立ち入り、仏拝みなどする程に、⁵ 輿、馬乗り連れて、ゆゆしげなる人の通り侍りけるが、⁶ 何とか思ひ侍りけん、この堂に入
り侍れば、伊勢すべき方なくて、うしろの方へ行き侍るに、この中の主と思しき僧の追ひ来て、⁷ かやうのこと申すにつけて、
⁸ はばかり侍れど、仏の御告げ侍りて申すになん、我が住む方さまをも御覽せられ侍れかすと、ねんごろに聞こえ侍り、⁹ これを
たがへんこと、仏の思し召さんもおそろしく覚え侍りけるままに、なびきにけり、殊に悦びて、輿に乗せて、¹⁰ 男山にとともに
至り侍りぬ、八幡宮の檢校にてぞ侍りける、いつきかしくことかぎりなし、子どもあまたまうけにければ、¹¹ わくかたなく
わりなきものに思ひてぞ侍りける、この檢校も、年ごろ、あひなれ侍りける妻に別れ、みめかたちあてやかに、心さまのわり
なからん人がなと思ひけるに、この伊勢を得てければ、心のままにぞ侍りける

(『撰集抄』)

〔注〕 伊勢…宇多天皇中宮温子に仕えた女房。『古今和歌集』に多く入集する歌人。

太秦…京都市右京区にある地名。ここは太秦にある広隆寺をさす。

男山…京都府八幡市にあり、石清水八幡宮が鎮座する。

檢校…寺社の総務を監督する役職。

問一 傍線部1「世の中すぎわびて、都にも住みうかれなんどして、世にふべきたづきもなく」の解釈としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 経済的にも困窮し、都での生活が落ち着かなくなったが、生活費を稼ぎ出すような手段は見つからなかった。
- b もっと広い世界を知りたくて、都の外に旅をしたりしていたが、旅費を捻出することができなくなった。
- c 結婚生活も破綻し、都の外に恋の相手を求めようとしたが、なかなか相手は見つからなかった。
- d 才能に自信を失い、都で歌を詠むのにも飽きてしまったが、歌を捨ててまで生きてゆくだけの意味は見出せなかった。

問二 傍線部2の和歌「南無薬師あはれみ給へ世の中にありわづらふもおなじやまひぞ」の解釈としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 薬師仏よ、私を憐れんで助けて下さい。私は生きてゆくためにあなたと同じ病気になってしまいました。
- b 薬師仏よ、私を憐れんで助けて下さい。生きてゆくためには病気になる必要があると知ってしまいました。
- c 薬師仏よ、私を憐れんで助けて下さい。私が苦しんで生きているのは病気になったのと同じことです。
- d 薬師仏よ、私を憐れんで助けて下さい。生きるのがつらいと思っっているうちに病気になってしまいました。

問三 傍線部3「仏殿うごき侍りけり」とあるが、なぜそうなったのか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 伊勢の心に動揺があつて、寺が震動したように見えたから。
- b 願いが聞き届けられたことの合図が、薬師仏から送られたから。
- c 和歌の返事ができなかった仏が、動揺を隠せなかったから。
- d 和歌に応じて、仏が住まいを太秦から伊勢に移動したから。

問四 傍線部4「何となく苦しきままに」とあるが、なぜそうなったのか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 徹夜明けの早朝に慣れない外を出歩いたから。
- b 祈願した通りに薬師から病気を移されたから。
- c 仏の考えが実はよくわかっていなかったから。
- d その場所へ仏に導かれると決まっていたから。

問五 傍線部5「ゆゆしげなる人」とあるが、どのような意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 意味ありげに着飾った人
- b 不気味な雰囲気のある人
- c いかにも金持ちそうな人
- d 身分もありそうな高齢者

問六 傍線部6「主と思しき僧」とあるが、この僧と同一人物として登場するのは誰か。本文に用いられた次のことばの中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 伊勢
- b 薬師
- c 貴き僧
- d 仏
- e 検校

問七 傍線部7「かやうのこと」とあるが、本文のどの部分を指示するか、次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a はばかり侍れど、仏の御告げ侍りて申すになん、我が住む方ざまをも御覽ぜられ侍れかし
- b 仏の御告げ侍りて申すになん、我が住む方ざまをも御覽ぜられ侍れかし
- c 我が住む方ざまをも御覽ぜられ侍れかし
- d 我が住む方ざまをも御覽ぜられ侍れかしと、ねんごろに聞こえ侍り

問八 傍線部8「はばかり侍れど」とあるが、なぜ「はばか」ったのか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 伊勢は初対面の女性であったから。
- b 仏のお告げに従ったただけであったから。
- c 妻と別れてまだ間もなかったから。
- d 自宅が都から随分離れていたから。

問九 傍線部9「これ」とあるが、本文のどの部分を指示するか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 汝が歌の、身にしてみて思し召さるれば、世にありつくべき程のこと侍るべし
- b この暁、いそぎてまかりいでね、もし、道にて思はざること侍るとも、いなぶ心あるべからず
- c 何となく苦しきままに、ある古堂に人もなくて侍りけるに立ち入り、仏拜みなどする
- d かやうのこと申すにつけて、はばかり侍れど、仏の御告げ侍りて申すになん、我が住む方ざまをも御覽ぜられ侍れかし

問十 傍線部10「わくかたなくわりなきものに思ひてぞ侍りける」とあるが、どのような意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a どうしていいかわからず、ただただ困り果ててしまった。
- b ただひたすらに、すばらしい人だといって大切にした。
- c どうしていいかわからず、そのまま家に置くことにした。
- d 子どもたちを溺愛するあまり、人としての分別を失っていった。

問十一 傍線部11「心のまま」とあるが、具体的には本文のどの部分に記されているか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 殊に悦びて、輿に乗せて、男山にともに至り侍りぬ
- b いつきかしづくことかぎりなし、子どもあまたまうけにければ、わくかたなくわりなきものに思ひてぞ侍りける
- c 年ごろ、あひなれ侍りける妻に別れ
- d みめかたちあてやかに、心さまのわりなからん人がなと思ひけるに

三

次の文章を読んで、後の問に答えよ。なお、設問の関係上、返り点・送り仮名を省いたところがある。

莆田壺山下有路通海。販鬻者由之。至正丁未春、民衣虎皮、煨

利鉄為爪牙、習其奮躍之態。絶類。乃出伏灌莽中。使偵者縁木而

視。有負囊至者、則嘯以為信。虎躍出扼其吭殺之。或鬻其肉為

噬齧状。裂其囊拔物之尤者。余封秘如故。示人弗疑。人競伝、壺

山下有虎、不食人、唯吮其血。且神之。已而民偶出。其婦守巖

穴、意必有重貨。乃蒙皮而搏之。婦人質脆柔、販者得与

抗。婦懼逸去。微見其蹠也。婦謀諸鄰。謀逐之抵穴。獲金

帛無算。民竟逃去。嗚呼世之人虎、豈独民也哉。

(宋濂『文憲集』)

〔注〕○莆田壺山―現在の福建省莆田市にあった壺公山。 ○販鬻―売る。 ○至正丁未―元の至正二十七年（一三六七）。 ○
 煅―鍛に同じ。 ○灌莽―草木のしげった野原。 ○嘯―口笛を吹く。 ○嚮―肉を切る。 ○噬齧―かじる。 ○吮―
 口で吸う。 ○蹠―足跡。 ○鄰―隣に同じ。

問一 傍線部「絶」、7「重」の意味を含む熟語として、もっとも適切なものを次の中から一つずつ選べ。

1 a 絶境

b 絶縁

c 絶滅

d 絶好

7

a 体重

b 尊重

c 重宝

d 重複

問二 傍線部2「使偵者縁木而視」、3「為信」の意味として、もっとも適切なものを次の中から一つずつ選べ。

- 2 a 番人を木に登らせてあたりを見張らせた。
- b 見張り番に命じて木の周囲を監視させた。
- c 監視役をやとって木に隠れて見張らせた。
- d 密偵に木々を回らせて監視させた。

3 a 信頼関係を結んだ。

- b 証拠とすることにした。
- c 音信を通じた。
- d 合図の信号とした。

問三 傍線部4「為噬齧状」とあるが、それはなぜか。その理由として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a まるでかんだかのように見せかけ、虎の恐ろしさを誇張するため。
- b いかにもかじったような状態にして、虎が本当にかんだと見せかけるため。
- c かみついた状態であることを示して、虎の凶暴さを人に知らせるため。
- d かみ碎かれた肉を放置しておくことで、虎が食べたことを教えるため。

問四 傍線部5「余」に該当するものとして、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 普通の物
- b あまった物
- c めずらしい物
- d おさめやすい物

問五 傍線部6「示人弗疑」の書き下し文として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 人の疑ひなきを「示す
- b 人に「示さずんば疑はず
- c 人に「示せど疑ふなかれ
- d 人に「示すに疑はず

問六 文中の空欄Xには「木上嘯声の急なるを聞く」と読む文章が入る。その漢文として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 木上聞急嘯声
- b 木上聞嘯声急
- c 聞木上嘯声急
- d 聞嘯声木上急

問七 文中の空欄Yに入る語として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 虎
- b 人
- c 民
- d 偵

問八 筆者の主張として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 世の中には虎の皮をかぶった人のような残酷で貪欲なものが、何と多いことか。
- b 世の多くの人は己の欲望を増大させた挙げ句、虎のようになってしまふ。
- c 虎のような所業を行う人間を、どうして放置しておいてよかろうか。
- d ああ、人が虎になるのは民衆のせいではなく、むごい政治のせいなのである。

